

令和7年度 第1回白馬中学校部活動地域クラブ移行検討協議会 会議録						
招集年月日	令和7年10月1日(水)					
招集の場所	白馬村役場 2階 庁議室					
開閉会の日時 及び宣言	開会	令和7年10月1日(水)午後1時29分				
	閉会	令和7年10月1日(水)午後3時01分				
出席委員	所属名	氏名	所属名	氏名	所属名	氏名
	白馬村教育委員会	横川 秀明	中信教育事務所	高木 潤一	白馬村スポーツ協会	切久保 達也
	スポーツ推進委員	前田 千恵	白馬中学校	中村 和彦	白馬南小PTA	今西 ひさ美
	白馬北小PTA	一井 剛	白馬中PTA	田中 瑞人	生涯学習スポーツ課	鈴木 広章
事務局	教育課長	下川 浩毅	教育係長	穂谷 圭祐	主 査	早川 敬

会議の要旨

<p>1 開会 [教育課長] 開会を宣言した。</p> <p>2 教育長挨拶 [教育長] ・部活動地域展開については本村も3年程前から様々な意見をいただきながら内部で検討を進めてきた。今回第1回の協議会を様々な分野から集まっていた皆様と検討を深め、部活動の地域展開を進めていきたいと考えている。 ・1番に考えるのは、子どもたちのためにいい方向、方法を見つけられればいい。 ・アドバイザーとして中信教育事務所から高木指導主事も参加いただいている。全県、全国的な方向についてお話を聞きながら今後の方向を決めていきたい。 ・本日は現状の把握と課題などについて議論をお願いする。</p> <p>3 協議会の目的及び設置要綱について[資料1] [指導主事][教育課長] 資料1により説明。</p> <p>4 委員の委嘱 [教育課長] 委嘱委員へ委嘱上の配布を行った。</p> <p>5 自己紹介</p> <p>6 会長及び副会長の選出 [教育課長] 設置要綱第3条第3項により選出する。 会長に教育長、副会長に切久保委員を選出し賛成多数で承認された。</p> <p>7 協議事項 (1)スポーツ部会及び文化部会委員の承認について(資料2) [教育課主査] 協議会委員名簿(資料2)を使いスポーツ部会及び文化部会について内容説明をした。</p>
--

(2)現状と今後のスケジュールについて(資料3)

[教育課主査]

資料3により内容説明をした。

(3)アンケート結果報告[資料4]

- ・部活動顧問教職員及び部活動指導者向けアンケート結果
- ・児童生徒及び保護者向けアンケート結果

[教育課主査]

資料4により内容説明した。

[中村委員]

白馬中は割と若い先生が多い。自分がやって来た活動、やりたい活動であればアンケートの回答が変わる可能性はある。今後の動きもまだまだ分からない部分もあるので現時点での回答ではそうなると思う。

[今西委員]

親としては子供やりたいって言えば無条件で応援したい。

子供のアンケート結果を見て、部活動に入りたい子がたくさんいることにびっくりした。

[一井委員]

今ある既存の部活は当然入りたいって子は多いが、少数意見としてプログラミン グや、e スポーツ、ゴルフ、テニス、卓球などもやりたい子はいる。

そういった子たちが急激に増えたときに応援できる体制が必要だと思う。

子どもを応援できる体制だから、クラブ部活動に入らなくてもよいという考えも必要。習字、ソロバン、ピアノなどを行っていた小学生は、中学行ったら部活動メインで活動しなければいけないのでそれまでの活動はやめる、やめなきゃいけないとか、現在はそういう選択肢になっている。

[田中委員]

部活動の合同練習などは現在あるのか？

[教育課主査]

以前は女子バレーボールで白馬村を拠点校として、小谷村の生徒が白馬に練習に来ていたことはあるが現在はない。

[前田委員]

続けたいというお子さんと二極化していくのではないかと課題がある。用具の購入や指導者礼金など部活動の時よりは費用面での負担が大きくなり、家庭的に環境的に運動したくてもできない子どもも出てくる。そこは避けなければいけないが全国的な課題であると思う。

[切久保委員]

白馬高校の存続の關係に携わっている中で、白馬高校に行かない理由の中に、やりたいその部活動がないというものがある。もし白馬高校に入っても、クラブチームとして活動できる場所があれば、白馬高校を選んでいくという話はある。

難しいことではあるが、小学生からやっている習い事などを含めて地域展開できることを目指していきたい。

[中村委員]

中学校で野球部の顧問を行ってきたうえで、部活動の良さや学校の教育活動におけるメリットはとても感じている。正直個人的には大反対。学校教育と絡めて部活動を行うメリットもあり、保護者の方にも応援いただけていたと思う。

地域展開後の指導者に教育活動的なものも含めてお願いするのは大変な苦勞となってしまう、責任を感じて引き受けてはいなくなるのではないかと考える。

学校としても、連携が難しくなるのではないかと不安もある。また、現在白馬中に在籍している生徒で、野球、剣道、水泳、サッカー、柔道などは個人で白馬中学校として参加している。現在の部活動のみを母体として地域移行した場合には、その生徒たちの受け皿が無くなってしまうので、体制をしっかりと整えなければいけな

い。

生徒の中には、新しく部活を作りたいという子たちもいるが、その意見は誰が聞いて立ち上げてくれるのか、逆に人が集まらない活動は誰が無くすのか。この部分については全く見えてきていない。

[教育長]

先生方の負担を軽減したがために、子どもと生徒の関係が希薄になることや、保護者負担、指導者不足など大きな課題になる。今後はそのあたりを検討しないとイケない。

[中信教育事務所]

小学生の中で、中学生になったら活動をしたい子どもは白馬にたくさんいる。

そういう子たちが活動できる環境を整えるよう、ここで議論していく必要がある。今までの学校部活動のように、日常生活と部活動をリンクさせながら活動していくのは正直難しい。

(4)指導者確保と中学生を受け入れられるクラブについて(資料5)

[教育課主査]

資料5により内容説明した。

(5)謝金等の費用負担について

[教育課主査]

今後の検討として、謝金等の費用はどの程度必要なのかを情報をいただきながら検討を進めていきたいと考えている。

[生涯学習スポーツ課長]

白馬村スポーツ少年団として12クラブが登録されているが、その内4クラブは現在休止中で、8クラブが活動している。課として考えているのは、このスポーツ少年団が受け皿となっていたくのが現実的と捉えている。先ほどの委員の話しでもあったが、それ以外の受け皿となりえるクラブも検討していきたい。

9 諸連絡

(1)第2回協議会開催日について

[教育課長]

11月末から12月初旬での開催を目指し日程調整を行う。

10 閉会

[教育課長]